

御嵩町、美浜町社会福祉協議会における

サービスラーニング活動の記録

〈活動先〉 岐阜県御嵩町
美浜町社会福祉協議会

1 はじめに

大学在学中の1~2年生のうち、多くのことを経験するべきだと思っている。それが3年次からのキャリア開発、社会福祉援助技術演習、教育実習といった学びの基礎となるはずだからだ。そういった思いから私たちは「学外に出で活動を行う」ことを念頭において活動先を探した。また、サービスラーニングを行うことによって今後の私たちの教員としての人格形成に良い影響与えてくれると考えたからである。サービスラーニングとは、学習を基盤とする。例を挙げると図書館での学び、座学での授業などが該当する。そこに社会福祉協議会、高齢者施設での活動など、地域活動に関わることによってより実践的な学びへと結びつけることがサービスラーニングだ。実践的な学びを取り入れることによってその後の卒論作成など、その先の学びに大きく影響していく。サービスラーニング活動は一見、ボランティアと似ており、自主性、無償性、社会性といった特徴はボランティアと同じと言っても良いだろう。しかし、それらに加えて、市民性やリーダーシップを育むことを目的としている。そして、もっとも大きな特徴はサービスラーニング活動の最後には学習者として、提言することだ。ボランティアの場合は参加しておわり、になります。サービスラーニングは学習者として参加し、意見を示す。そして〇〇してはどうかと活動の最後に提言し、実行する。そこで私たちは座学で学んだ地域福祉がサービスラーニングと関係しているのではないかと仮説を立てて活動へ赴いた。そこで、地域福祉推進活動を先進的に行っている岐阜県御嵩町で地域福祉に必要なものは何かを学ぶため、そして社会福祉協議会へは、日本福祉大学がある地域での地域福祉を学ぶためそれぞれ活動を行った。

2 岐阜県御嵩町での地域活性化活動

(1) 活動先紹介

活動先である、岐阜県御嵩町は、岐阜県の山岳部に位置する自然が豊かな町である。そこでは、高齢者人口の増加とは反比例して若者の都心部への流出といった現象が起こっている。それは同時に地域の過疎化を促進する結果となってしまう。それは鉄道利用者数にも影響しており、年々利用者数が減少傾向にある名鉄広見線は廃線計画が立ってしまっている。しかしながら御嵩には、御嶽宿商家竹屋や謡坂の石畳、願興寺といった歴史的建造物が多くあり、概観なども当時のまま維持されている場所が多いため、観光スポットとしての役割が果たせるのではないだろうか。また今回は御嵩町で恒例の「ささゆり祭り」が開催されるということもあって名鉄広見線利用者数増加へ繋げるために一大イベントを行った。

(2) 活動目的

御嵩町では「ささゆり祭り」に関わることで地域福祉を理解する。児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、全てを包括するL字型と呼ばれる福祉を学び、体験することをサービスラーニング活動と位置づけて活動する。また地域福祉を体験、学んだ上でその地域に足りないものは何なのかを提言することを今回の活動の目的とする。また活動先で多くのことを「参加、経験」することによってその後の学びを形成する。

(3) 活動内容

私たちが行ってきた活動内容は以下の通りである。

5月29日 ささゆり祭り準備

5月30日 ささゆり祭り準備

6月12日 ささゆり祭り会場設営、看板作成

6月13日 ささゆり祭り当日 イベント会場手伝い、片付け

今回は学生たちが行ってきた「ささゆり祭り」イベントスタッフの活動内容について述べていく。

(4) 御岳町におけるサービスラーニング活動

前述したとおり岐阜県御御嵩町とは過疎化の進む地域で高齢者人口と生産年齢人口が反比例した状態の地域である。それは、鉄道の廃線計画にもつながっており、今回の「御嵩町ささゆり祭り」では、廃線計画の立っている名鉄広見線利用者数増加のために流しそうめんギネス記録へ挑戦した。一大イベントを行うことと事前告知をすることによって前年度のささゆり祭りの観客動員数を大きく上回るようにした。2500Mという長いレールを敷いて流しそうめんを行わないとギネス記録は達成したことにならない。役場の人たちは何週間も前から竹切断作業を行うこと、竹と竹をつなぎ合わせる作業を行っていた。私たち学生スタッフもその作業に加わらせていただいた。ギネス記録用のレール(以下本線)をつなぎ合わせるだけではなく、イベント参加者にも流しそうめんを楽しんでもらえるように参加者用のレールを作ること、また竹で椅子を作成するといったイベント参加者にも楽しんでみた。



準備作業では、様々な役場の人々と関わることが収穫となったといえる。一緒に作業をしていただいた町役場の人は御嵩町のことを誇りに思っており「こんなにいい町は他にいったことがないよ。」といった声や「大変だけど町の人と一緒に祭りを盛り上げていきたいしね。」といった声を聞くことができた町の人も作業場までの道中に「がんばってね」といった声もかけていただくことが多かった。それは都心部では見

慣れない光景であり、知らない人に声をかけられることに慣れていない私は少し驚いてしまったが、同時に嬉しかった。町役場の人がこのような温かい、人の温もりのある町を形成しており、住民サイドもそれに応えて地域との繋がりがますます色濃いものとなっていると感じた。6月13日(日)の本番では、多くの参加者にお越しいただくことができた。2500Mという長い流しそうめんを見る子どもたちは好奇心でどうしても触ってみたいくなるようで私たちは竹のレールを管理することとなった。2500Mのレールを一人で管理することはできないため多くの学生スタッフによって管理されていたのだが、そこでは御

嵩の子どもと関わる機会があった。子どもたちに「御嵩ってどういうところ？」と聞いてみたところ「この町は遊ぶところがないから早く都心に行きたい」といった意見が大半を占めていた。世代によって御嵩に関しての感じ方は大きく変容しているように思える。ギネスはスタートから約1時間でゴールにたどり着いた。途中でレールのつなぎ目から水が漏れる等の事故があったが何週間も前から準備してきた私たちにとってゴールした達成感がこみ上げてきて泣き出す役場の人もいた。

★今回の活動における問題点と提言、今後の活動における展望

今回のイベントは町役場の人、大学教員のリーダーシップ性が発揮されたことによって成功できたといえる。また事前告知を大きくしたことによって参加動員数の増加が見込めた。そして何より住民が主体となって行うことが地域福祉にとって重要であることを学んだ。つまり、地域福祉推進者のリーダーシップ、広報力、住民主体の原則の3つが互いに関連しあうことによって地域福祉が完成されるであろうということが学べた。また今回は町役場の人、大学教員が舵を取って今回のイベントを行ったが、学生たちが地域福祉推進者という立場を担うことによって学生たちの学びの幅を広げることができるのではないかと今回の活動の提言とさせていただく。地域活動へ積極的に関わることによって主体性の上昇が図れそれは同時に今後のフィールドワーク活動や相談援助実習や教育実習といった実践活動へ大きく影響していくことだと学んだ。地域福祉とは企業、行政だけでなく住民も参加することによって成り立つ福祉である。「そこに住む人」が参加することによってその地域のニーズに合ったその地域らしい姿に変容していくのではないかと考えた。

3 美浜町での活動

(1) 活動先紹介

愛知県知多半島の先端部に位置する知多郡美浜町。日本福祉大学美浜キャンパスの所在地である。人口は2万5千人で、高齢化率は21%である。しかしながら、日本福祉大学生の下宿生の中には住民票を移していない学生もいるため、数は定かではない。

(2) 活動目的

サービスラーニング活動をするにあたってボランティアとの違いは何なのかということに関して私たち自身で見出したいと思ったのがきっかけである。実際に活動に参加して何が、どうボランティアと違うのかを学ぶことを目的としている。また、わたしたちにとって密接で日本福祉大学の在する美浜町をもっと知りたいという思いから美浜町を基点として活動することにした。

(3) 活動内容

- 6月16日(水) 美浜町社会福祉協議会へ訪問
- 9月15日(水) 海の子文庫の野間小学校での活動見学
- 夏期休業期間 ふれあいサロン、サマーボランティアスクールへの参加
- 9月23日(木) 第22回障がい児者ふれあい運動会にボランティアとして参加
- 10月14日(日) ボランティアフェスティバルにボランティアとして参加

(4) 美浜町でのサービスラーニング活動



6月16日(水)には、まず美浜町のボランティアネットワークの中心的な存在である美浜町社会福祉協議会で事前調査を実施した。そこで、社会福祉協議会の地域における役割や美浜町のボランティアネットワーク、ボランティア活動の状況などについて伺った。ボランティア活動についての反応では、成長を感じる、外部の風が入り新鮮で良いということだった。しかし、反面、ボランティアが来たから困ったという声もあるようでした。特養などの

ボランティアでは、ボランティアさん達に利用者の方がかまってあげて、かえって利用者の方が疲れてしまい、どちらがボランティアか分からないといった悪影響があるそうです。特に学生の場合、単位の為だけに参加したという人は利用者の方に態度で伝わってしまい、それが利用者の方に不快感を与えることになっている。これを聞いて私達は、ボランティア活動の自主性の大切さを感じた。

また、夏期休業期間中には地域の高齢者が月に1度集まる交流の場「ふれあいサロン」と中学生の夏休みの体験事業である「サマーボランティアスクール」に参加した。「ふれあいサロン」ではレクリエーションや、おしゃべり、健康体操や作品作りを話しながら心地よい空間の中で行う。参加者一人一人が真剣に取り組む姿、楽しそうな姿はとても印象的であった。月に1度のこの場を待ちわびている方もいて、地域で生活するうえでこのような自由な交流の場は必要なのだと実感した。「サマーボランティアスクール」ではNPO法人チャレンジドの夏休み行事や、手話体験、点訳体験、高齢者施設の見学など様々な分野に自ら選択して体験学習を行う。中学生の積極的な活動の姿は印象深く、中学時代でこのような経験を出来ることは、今後の進路選択にも大きな影響を及ぼすと考えた。

そして9月15日(水)には、美浜町社会福祉協議会に登録している海の子文庫さんを紹介してもらった。私達のゼミは教職ゼミということで活動拠点に保育園、小学校、中学校を持つ海の子文庫さんに興味を持った。海の子文庫さんは子供に本に親しんでもらうこと、子供と本を読み合うことにより子供達と触れ合うことを活動目的にしているボランティアグループである。この日は野間小学校で低学年の生徒への公演を見学させて頂いた。ことばあそびうたや本の朗読、紙芝居、人形劇といったブックパフォーマンスを見た。今年は生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋で行われるということで、それに関連した本を選んだそうだ。海の子文庫の皆さんは、子供達の笑顔や「楽しかったよ」「あの本良かったよ」などといった言葉が嬉しくて、また頑張ろうと思えると言っていた。

短期ボランティアとして9月23日(木)は、第22回障がい児者ふれあい運動会ボランティアとして参加させて頂いた。障がい児者への競技参加支援やチーム内での応援係、運営スタッフとして仕事を行い、一緒に競技に参加したりしながら楽しんだ。

さらに10月14日(日)産業祭り内で行われた、ボランティアフェスティバルでは体験コーナーの中のNPO法人チャレンジド・知多南部自立支援協議会障碍理解啓発ワーキンググループさんの車椅子・視覚障がい者ガイド体験ウォークラリーに運営ボランティアとして入らせて頂いた。車椅子体験では参加者の方に車椅子の使い方の指導を行い、自動販売機など私たちが何気なく済ませていることが、どんなに困難かを体験してもらった。視覚障がい者ガイドヘルプでは視覚障がい者の方と一緒に歩き、目の代わりになって障害物があることを知らせたりして、身近な困難を知ってもらう機会となった。

★今回の活動における問題点と提言、今後の活動における展望

今回の活動を通して、日本福祉大学生の地域の関わりの希薄さを痛感した。そこで、今後総合的な活動（障がい児者ふれあい運動会や産業まつり）を宣伝し多くの学生に美浜町を知ってもらいたい。また、それと同時に美浜町には多くのボランティア活動団体があるので学生として力添えしていきたい。ボランティア活動を通してサービスマーケティングの活動から、その時限りではなくリフレクションを行い次につなげていくことの重要性を学んだ。そして、今後より一層美浜町を活性化させ、多くの人に知ってもらうためにも学生という立場から一参加者として関わっていきたい。



4 今後活動する学生に向けて

私たちは今回の二つのサービスマーケティング活動を通して、人との繋がり大切さを学びました。そこに住む人の繋がり、協調性が向上することによって、その地域の福祉も同様に向上します。そこに私たち学生が加わることによってさらなる地域の発展だけでなく私たちの学びの拡大、より実践的な学習活動が望めます。今回、学びの場を提供してくださった皆様に感謝したいと思います。自分のキャリア形成のため、地域のためにも是非みなさんサービスマーケティング活動に挑戦してみてください。